

リチウムイオン電池を内蔵した携帯用扇風機に注意！

最近街中で、ハンディタイプの携帯用扇風機をよく見掛けます。涼しい風を簡単に手に入れられることから、外出時に携帯する人が増えています。この携帯用扇風機に電気を供給しているのは電池ですが、充電タイプにはリチウムイオン電池が多く使われています。リチウムイオン電池はUSB端子に接続することで手軽に充電でき、軽いうえに電池としての容量も大きいことがその理由です。大変に便利な製品ですが、取り扱いを誤ると思わぬ事故につながる可能性があります。リチウムイオン電池を内蔵した携帯用扇風機を安全に使いこなすための注意点について取り上げます。

■リチウムイオン電池を内蔵した携帯用扇風機での事故

独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)のニュースリリースによると、リチウムイオン電池を内蔵した携帯用扇風機の事故は2019～2020年度の2年間で37件報告されています。製品の不具合などに起因する事故がほとんどであり、内蔵されているリチウムイオン電池の不具合で内部ショートを起こすなどして火災につながったものも19件ありました。リチウム

イオン電池の怖いところは、電解液に可燃性物質が使われていることで、発火して火災につながる可能性があることです。誰しも、携帯用扇風機から火が出るとは考えにくいものであり、思わぬ事故にあわないようにするには、製品を選ぶとき、使うとき、廃棄するときに製品の特性を踏まえた正しい扱いをすることが重要です。ポイントは以下の通りです。

①確かな製品を選ぶ

製品を選ぶときには製造・輸入事業者や販売元が確かな製品を選ぶ。また、インターネット通販などの場合、もしものときの連絡先が不明なことがあります。事業者の連絡先が確かであることも製品選びの目安となります。

②充電時は置き場所に注意

充電中に内部ショートなどのトラブルがあると発火することがあります。充電時は近くに物を置かない、様子が見える離れた場所に置く、就寝中に枕元で充電しない。

③充電用コネクタ内部のホコリや液体付着に注意

通常、充電用コネクタにUSB端子が使われていますが、端子の内部にホコリ、ゴミ、液体などが付着した状態で接続する

とショートすることがあり危険です。

④衝撃を与えない

落としたり、強い力が加えられたりしないように注意する。リチウムイオン電池に衝撃が与えられ変形すると内部ショートして発煙、発火につながることもあり危険です。

⑤高温、水濡れ、ペットに注意

安全のためリチウムイオン電池に組み込まれている制御機能が働かなくなるおそれがあるので、高温下に放置しない、水に濡らさない（雨、水没など）、ペットのかみつきなどに注意する。

⑥前兆を見逃さない

「充電できなくなった」、「充電中に以前より熱くなる」、「外装やバッテリーパックが膨張している」、「電源が切れてしまう」などの異常は事故の前兆です。直ちに使用を中止し事業者に連絡しましょう。異常の認められた製品は事業者による必要な措置が取られるまで、ゴミとして廃棄せず、金属製の缶などに入れて保管する。

⑦正しく廃棄する

リチウムイオン電池を内蔵した携帯用扇風機は、決して一般ゴミに出さない。自治体の指示に従って廃棄する（リチウムイオ

ン電池は回収リサイクルが基本ですが、分別や回収の仕方は自治体により違いがあります）。

携帯用扇風機に限らず、リチウムイオン電池を使用した製品全般にいえることですが、リチウムイオン電池を一般ゴミとして廃棄すると、ゴミ収集車で圧縮され変形することで発火して、ゴミ収集車が火災を起こすことがあり大変に危険です。携帯用扇風機は小型で外装がプラスチックのため一般ゴミと勘違いされがちであり特に要注意です。

事故は起こさないことが第一ですが、もし発煙、発火したときは消火器や大量の水で消火し被害の拡大を防いでください。大きな火災となり手に負えないと感じた場合は、すぐに119番通報してください。

